



日本洋書協会

JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

AUGUST 2021
REPORT MAGAZINE

会報誌 | vol. 55 no. 2

Published by JAIP 1-1-13-4F, Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051

e-mail:office@jaip.jp

総会報告 2021年6月25日(金)

2021年度定時総会は予定より1か月遅れ、6月25日(金)午後4時から出版クラブ(東京都千代田区)にて開催された。昨年は開催を断念したため、2年ぶりの開催となった。

〔出席状況〕出席 16社(現地 12社、リモート 4社)

委任状 6社

計 22社

正会員32社に対して上記のとおり過半数の出席を得たので、協会定款第31条の規定に基づき本総会は成立した。

平野総務委員長(ユサコ)の司会・進行により開会し、総会出席状況(上記)および2020年度の会員動向が報告された。

会員動向(2年間)：

入会：1社

Trans Pacific Press (株)

退会：8社

(株)エイビスブックセールス(株)、OECD、(株)サンメディア、(株)ネリーズ、(株)ニュートリノ、ビューローホソヤ、(株)マテマティカ、(株)ヴィアックス(賛助会員)

結果として一昨年の総会時に対し、正会員6社減の32社、賛助会員1社減の4社

計36社 個人会員2名となった。

初めにグresham理事長(MHM)から開会の挨拶・理事会報告及び各委員会の2020年度の活動報告が行われた。(一部資料での説明)

理事長からは、本日の議題である次年度からの協会の運営方針は協会活性化に有効なカンフル剤となるだろうとの挨拶があった。

議案審議〔議長：グresham理事長〕

1号議案 2020年度決算報告

平野総務委員長(ユサコ)より2020年度の決算内容の説明があり、続いて雨谷監事(極東書店)より監査報告があった。星野監事と精査の結果、会計処理には問題はなかった旨報告があった。その後採決の結果2020年度の決算は承認された。

2号議案 2022年度以降の協会運営案に関する件

平野総務委員長(ユサコ)より2022年度以降の協会運営案の説明があった。すでに2月に説明会を開催、さらにその際の質問をまとめた資料も配布されていたので、質疑・応答が中心となった。内容は別掲。

その後採決の結果2022年度以降の協会運営案に関する件は承認された。

3号議案 2021年度予算案

平野総務委員長から内容の説明があった。

2号議案の協会運営方針に沿い、会員増強のため、各委員会、理事会に多くの予算を割り当てた。その後質疑・応答がなされた。内容は別掲。

その後、採決の結果2021年度予算は可決、承認された。

以上ですべての議事を終了し、河村副理事長(丸善雄松堂)の挨拶を以て2021年度定時総会を閉会した。

以上



質疑・応答の内容 (Q:質問、A:回答、C:コメント)

2号議案

Q 上島様(教文館)

現協会の『残余財産を現会員に分配することが難しい』という見解に至った経緯を説明いただきたい。

A 河村副理事長

残余財産は、過去に正会員が100社以上であった時期の会員の財産の累積でもあり、現会員だけで公平に分配する適切で納得いただける方法を見つけるのは少し難しい。

そうであれば可能な限り、22年度以降もこの会が存続するために使うのが良いだろうと考え、分配ではなく使い切ることを目標にした。それでも残予算が残った場合は、寄付の可能性を示したが、その場合はその他の選択肢も含めて理事会に諮る。

C 山田様(アセットジャポン)

今回の提案はこれから協会を開かれたものにしていくという趣旨・発想だと理解した。新しい協会の成立のためには、今洋書協会で活躍している若い人たちを取り込むための積極的な活動が不可欠である。

3号議案

Q 鶴様(東亜ブックス)

懇親会費の100万は参加者無料を想定しているのか？
2022年度以降も新年会は開催され、参加することはできるのか？

A グレシャム理事長、平野、他

100万円は本年度の懇親会(現在は新年会を想定)に使用する想定。

次年度以降についても、年1回の懇親会を行うことを想定している。

Q:遠藤様(MHM)

若い方を中心に会員拡大をしていくときに、SNSを無視することはできないが、インスタやTwitterの活用は検討していただけるか？

文化厚生委員会や事業委員会が企画したイベントを宣伝するのにSNSを使えるのではないかな？

A 河村副理事長

費用がどのくらいか把握していないが、一過性で発生する費用であれば、この一年の予算が比較的余裕があり使いやすい。運営費用がかかるのであれば次の年度の会費は1万円だけなので、その範囲で収まるならそれを使うことを検討したい。

C 山川理事

若い人を取り込む施策はいろいろ必要だが、来年度から個人会員は無料であり、既に退会した会員に個人会員として再参加していただくということも考えられる。理事会ではそのような議論もあったということも補足させていただく。

Q 山田様(アセットジャポン)

新しい協会は運営方法を改めた現在の協会の延長上にあり、ただし予算は新しい会には持ち越さないということだと理解した。移行期間はどれくらいか？そこでダメだった場合は余った予算はどうするのか？

A グレシャム理事長

移行期間はこれから1年。その後、それぞれのイベントは参加する人たちが実費で実施することになる。

A 河村副理事長

移行期間後に残余財産が残った場合の選択肢としては、寄付と分配を想定している。また、企画がはつきりしていれば持ち越しを1年間は認める予定。

Q 山田様

移行期間が1年しかないのは短すぎ、リスクを感じる。イベントで収益をあげることは許可されるのか？

A 河村副理事長

会員の不利益にならなければ収益を上げることは可能としている。問題があった場合は、以降同様の活動を禁止したり、法人会員様を除名するという可能性はある。

また、この一年の活動の中でご意見をいただければ変えられるところは変えていきたい。

以下は2月19日の説明会、総会資料での送付でご承知と思いますが、周知のため再掲いたします。



2022年度からの協会運営方針

1. 背景

当協会の会員数は年々減少傾向にあり、結果として会費収入が減少し、部分的に活動が抑えられる状況となっています。会員数減少の要因は洋書を取り巻くビジネス環境の変化から各社の事情まで様々なことが考えられますが、同時に、業界のあり方が大きく変わったことは否定できません。業界としての共通の課題に向かっていくという業界団体としての役割のみを追求するのは困難な状況かもしれません。むしろ、より多様なネットワークを築き、会員の新たな気づきを促すことができるさまざまな「場」を提供することが求められているのではないのでしょうか。

協会財政の問題だけで言えば、昨年組み立てた20年度予算案において、事務局の外部化も視野に大幅な支出削減を行い、現状の活動レベルの継続であれば10年程度の継続は可能と判断しています。ただし、今後も予想される社会情勢の変化や世代交代を考えると、今の理事会メンバーで協会のあり方を抜本的に見直すべきであると判断して、検討を始めました。

理事会では、現時点での目的を維持しながら、参加者を増やしたい。そのためには、業界内だけではなく出版物そのものや利用に関心を持つ個人の方々も含めた幅広い層に拡大すべきではないか。

また、新たなメンバーや今まで参加していなかった若いメンバーが主体的にイベント企画を行い、参加することができれば、協会が活性化され、業界内の情報交換のための交流会という以上の新たなメリットを生み出すことができるのではないかと。

運営の母体である理事会及び事務局を将来にわたって持続可能とするためには、コストのかからない、負担がかからない体制にすべき。

このような議論を続けて、これまでの慣例や既存の定款などの要件をゼロベースで検討し直し、ここに2022年度からの新しい協会運営についての案をご案内する準備が整いました。

以下、検討において重要視したポイントを2.に、2022年度からの協会運営(案)の概要を3.に箇条書きでご案内します。そして、その内容を実現すべく、現在の定款に代わる協会の会則を4.(別紙)にご案内します。

2. 検討内容

新しい協会運営の形を検討するにあたり、次のような点を重視いたしました。

- ・日本洋書協会の名称を残す(歴史は将来利用可能なように)
- ・さまざまなイベントによる交流を活動の基本とする
- ・交流のためのネットワーク基盤として存在し続けることで、将来の変化に柔軟に対応できる
- ・会員による自由な集まりや催しの開催を可能にする(自由度の高い協会)
- ・理事会に代わって、幹事会を設置し、代表幹事、副代表幹事を持ち回りで担う(協会の存続性を担保するため)
- ・事務局等の管理コストを最小限にし、コスト的にも存続性を高める
- ・代表幹事が担う協会の機能を絞り込む(代表幹事や事務局の負担を減らし、少ない予算で存続するため)
(例：年1回の懇親会開催、連絡網の維持、Webサイトの維持、最低限の会計処理と報告)
- ・参加者を増やす
- ・洋書に関わる先生方が個人会員として参加することを可能にする
- ・会費を少なくし、参加障壁を下げる

3. 2022年度からの協会運営(案)概要

理事会は上記2.に記載した検討の結果として、2022年度からの協会運営を次のようにすることを決定しました。

理事会は上記2.に記載した検討の結果として、本会の目的を「わが国文化の向上に寄与すべき本来の使命に基づき、外国語によるあらゆるメディアを通じた出版物・学術情報の流通の促進および普及を図ると共に、会員相互の研鑽と親睦を深めること」とし、2022年度からの協会運営を次のようにすることを決定しました。

- ・協会は会員の交流、情報交換の基盤として存続する
- ・会員種別を法人会員と個人会員の2種類とする
- ・法人会員は協会の目的に賛同した会社とし、洋書の流通に関連する会社に限定しない
- ・個人会員は協会の目的に賛同した個人とし、法人会員の会員会社への所属を条件としない
- ・理事会に代わり幹事会を設置し、会の基本機能を担う
- ・幹事会は代表幹事1社、副代表幹事1社、幹事で構成し、代表と副代表は持ち回りとする
- ・代表幹事は幹事会の事務局として、入会の受付をはじめとする幹事会の事務的な役割を担う

- ・代表幹事は会費の徴収と会計報告を行う
- ・代表幹事は会員の交流を目的として、年1回のイベントを開催する
- ・代表幹事は法人会員の情報公開のためのウェブページの維持管理を行う
- ・幹事会への参加を希望する法人会員は幹事会事務局にその旨を申し出て、幹事会が承認する
- ・会員は協会の目的に合致し、公序良俗に反しない限りイベント等を自由に企画・実施できる
- ・イベント等を実施しようとする会員は、自由に会員名簿を利用できる
- ・イベント等を実施しようとする会員は、実施前にその

- 概要を幹事会事務局に通知する
- ・会員が主催するイベント等の会計はイベントごとに行う
- ・会員が主催するイベント等の実施結果は会計報告と合わせて幹事会事務局に報告する
- ・年会費は法人会員1万円、個人会員0円とする
- ・年会費は事務局の運営、幹事会主催イベント、ウェブページの維持管理に用途を限定する

以上の内容を実施するため、当協会の定款に代わる新たな会則として別紙の「日本洋書協会会則」を定め、これに基づき2022年4月以降の運営を行うことといたします。

以上

海外ニュース

ロンドン・ブックフェア 2021 参加者は最長期間のオンライン開催に肯定的な反応

6月7日～7月1日まで開かれた史上初の完全オンラインでのロンドン・ブックフェアは、参加者数という観点からは主催者の希望に沿うものであり、また、オンラインでブースを開いた出展者にとっては、技術的なトラブルに対する不満は多少あったものの、おおむね好評だった。

ただし著作権交渉についてはこの時期は遅きに失したもので、ほとんどの著作権エージェンシーと出版社は春先に独自の「オンラインフェア」を催していた。

オンライン・ロンドン・ブックフェアでは、出展者のページのほかに75以上のオンライン会議やセミナーが開催された。

ブックフェアのディレクターであるアンディー・ヴェントリスは次のように語った。「オンライン・ブックフェアには約2,000人の来訪者を見込んでいましたが、イベント開催初日までに登録した人が1,000人以上いました」人気のあったオンライン・セッションは「ライセンス」「プレグジット」「サステナビリティ」で、それぞれ何百人ものビューワーによって視聴された。

これを書いている時点で、70の出展者が参加し、うち27がイギリスから、11がアメリカからとなっている。ElsevierやTaylor & Francisなどのアカデミック出版社、HarperCollinsなどの商業出版社、Gardnersなどの配給・出版サービス会社などが主な出展者である。

オンライン・ロンドン・ブックフェアに登録した出版関係者は、2,441人で、約半数の1,183人がイギリスから、220人がアメリカから、ついでインドの77、中国の68だっ

た。ちなみに2019年のリアルなロンドン・ブックフェアは、出展者1,700以上、来訪者は25,000人以上だった。

ほとんどの出展者はこの初めての試みに満足していたが、オンライン・ブックフェアのプラットフォームが使いにくいという声は少なくなかった。ある出版社の担当者は、「出展者としてセットアップするのも、セミナーに参加するのも、簡単ではなかった。現時点では細かい問題点がたくさんあって、とてもユーザー・フレンドリーとは言いがたい。でも、プラットフォームにはまだまだ可能性を感じるし、運営スタッフはITトラブルに献身的に関わってくれた」

ある児童書の出版社は、オンラインのロンドン・ブックフェアに出展することを、この世界的なパンデミックに対抗するビジネス戦略の一環として考えていた。「本来なら、世界中の取引先とブックフェアで直接会って話をするのが、良好な関係維持のためにはとても大事なことです。ともかく今は、交流を続けること、“見える”存在であり続けなければいけません。その意味でも、春と秋のあいだの、中だるみしやすいこの時期のロンドン・ブックフェアは、いい刺激になると思っています」

冒頭にも書いたが、著作権エージェンシーや出版社は春先に独自の著作権交渉のためのオンライン・フェアを開いてしまっていたので、ロンドン・ブックフェアは不参加のところが多かった。しかしそれでも、参加した著作権エージェンシーのなかには、期待していなかったうれしい成果を上げたところも多かった。

(The Bookseller, July 2, 2021 より適宜抄訳)

情報提供：MHM 遠藤尚子

我が社・わが街

第22回 荻窪

株式会社 三善

井上 護

株式会社三善と申します。弊社は昭和26年に創業後、昭和39年の東京オリンピックのまさにその年に、人形町より荻窪に移転いたしました。洋書の輸入・卸だけでなく、ペーパーコースターの販売、小型モーターの販売など、異業種多角経営という独自の経営路線で長きにわたりご愛顧いただいております。

今回は、三善にて営業を担当しております、新入社員の上井が案内させていただきます。コロナ禍のためなかなか街を探索する機会がないため、荻窪に造詣が深い方であれば「常識」のようなご紹介になるかもしれませんが、ご容赦いただければと思います。

さて、荻窪という街に対する私の印象は、個人経営の飲食店が多く、そのどれもが居心地のいいお店というものです。会う人会う人全ての方が優しく、アットホームな空気が街全体にあふれています。

そうした荻窪の街で、まずご紹介するのは言わずと知れた名店「春木家本店」さんです。昔ながらの「中華そば」や「粗挽き十割蕎麦」は体に優しくしみわたる味で、何度でも食べたくなります。弊社とも長いお付き合いがあり、毎年年末に、お昼に社員一同で年越しそばを頂くことが通例となっております。

また、荻窪駅近くにあるラーメンの名店「春木屋」さんの店主さんとは親戚の関係にあるとのこと。こちらでも行列が常に絶えない「荻窪ラーメン」の元祖です。

お次にご紹介するのが、荻窪駅から徒歩2分ほどのところにある「amika (アミーカ)」さんです。お勧めは「日替わり定食」と「ヘルシー定食」(各600円)です。店前にあるボードに書かれている本日の定食メニューを、会社の休憩時間に確認するのが私の習慣になっています。別のお店に行こうと思ってもつついランチの魅力に負けてしまいます。和・洋・中様々なメニューが毎日楽しめるため、飽きません。

「ヘルシー定食」はなにかと健康志向、筋肉志向が叫ばれる現代日本の強い味方で、健康(というよりお腹周り)が気になり始めた私にとって非常にありがたいです。

どちらも小鉢2品、スープ付きで、自炊ではなかなか賅いきれない品数をお手軽なお値段で食べられる点も魅力です。

3軒目に参りましょう。こちらは中華料理の名店「ふじかけ」さんです。いわゆる「町中華」というような雑多な感じではなく、荻窪の住宅街にふと現れる格式の高い中華屋さんです。といっても、入りづらいといった空気は全くなく、優しく丁寧な接客をしてくださる店主さん、店員さんのおかげで非常に居心地が良いです。全てのメニューに丁寧な仕事が施されており、前菜、海鮮、肉料理、デザートに至るまで、なにを頼んでも絶対に後悔しません。

お酒が好きな方には「荻窪ビール工房」さんがオススメです。ビール党にはたまらない完全ハンドメイドのビール屋さんです。麦芽の粉碎から手作りで醸造するというこだわり具合で、他では味わえない新鮮なビールを飲むことができます。期間限定の商品などもあるため、つつい立ち寄りたくなります。ビール好きならマストで飲んでおきたいお店です。

お酒がらみでもう一軒、「オギクボバル」さんをご紹介します。こちらはワインが自慢のお店で、メニューはどれもお酒に合うものばかり。特に、ハラミの肉盛りは名物で、お肉の品質だけでなく焼き方にも徹底的にこだわっており、つついワインが進みます。

さてさて、あまりにも食のことを書きすぎ、少しお腹いっぱいになってきたので、まじめなご紹介に戻しましょう。お次は書店さんのお話です。

荻窪には実はたくさんのお店さんがいます。古本屋などを含めると荻窪駅から徒歩5分圏内に10店舗程の本屋さん軒を連ねています。

駅北口の二つの商業ビルの中には、「啓文堂」と「八重洲ブックセンター」さんがあり、仕事帰りなどふとしたタイミングで気軽にアクセスできます。また、駅南口から3分ほど歩けば独特の店頭展開が魅力の「文禄堂」さんがあります。個人店ですと、「Title」さんは欠かせないでしょう。生活系の本が特に充実しており、お店にはカフェやギャラリースペース併設もしています。まだまだ紹介したい書店さんはあるのですが、卒業論文のような長さになってしまうので、紙面の都合上カットさせていただきます。ご容赦くださいませ。

最後に荻窪の代表的なスポットとイベントをご紹介します。

「荻窪タウンセブン」は荻窪駅すぐ近くにあるショッピングセンターです。こちらは戦後間もない1946年に闇市から発展してきた「荻窪新興商店街」がもとになっています。この商店街の老朽化に伴い、新規でビルを建て、そのお店が入居したことで、「荻窪タウンセブン」が始まりました。闇市時代から連続と続く商売の歴史を駅近の立地で感じることができます。

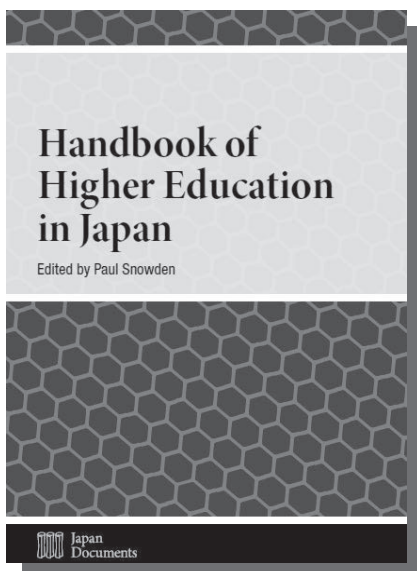
「荻窪音楽祭」はクラシック音楽を通じて荻窪の街づくり、街の活性化に貢献するというコンセプトのもと毎年開催される音楽イベントです。期間中には荻窪内外から人が集まり、街のそこかしこから美しい音楽が聞こえてきます。本年度はコロナウイルスの影響により、企画、および会場に一部変更があるものの、開催予定とのことです。

食、スポット、イベントと荻窪の街を簡単にご紹介いたしました。荻窪にお越しの際は、ご紹介したお店を散策いただくと私としてもうれしい限りです。

日本の高等教育ハンドブック

Handbook of Higher Education in Japan

Edited by Paul Snowden



中世ヨーロッパにおいて高等教育が聖職者育成という宗教的な起源をもつと同様に、日本の封建社会においても、高等教育のはじまりは宗教的なものでした。しかし、ヨーロッパでの高等教育が長い時間をかけてゆるやかに世俗的な広がりをみせていったのに対し、日本では19世紀の半ば、開国とともに西洋化が一気に押し寄せ、高等教育もまるで「ビッグバン」のようにきわめて短期間のうちに急激に進化していきました。

Japan Documents のハンドブックシリーズ第1作目となる本書は、日本の高等教育の成り立ちと経緯、そして今後の展望を25章からなる論文で紹介していきます。執筆陣は、教育学界の権威から、注目の中堅・若手の研究者まで多彩に取り揃え、多様なテーマについて最新の知識と情報を提供します。各章では、「国公立」と「私立」でそれぞれの施策の違いに注目しつつ、国際化、学生招致、学部の流動性などの重要項目について論じています。全編において豊富な参考文献を駆使していますが、従来の概観に倣う部分と、新奇でやや挑発的な意見や提言が盛り込まれている部分とがあり、それが本書の魅力となっています。

日本の高等教育についての格好の入門書であり、教育学だけでなく、日本に興味のある研究者にとっても、簡潔な情報を提供してくれる良質のハンドブックです。

September 2021 446 p. Hardback
ISBN: 978-4-909286-00-0
¥28,875 (税込)

—The Japan Documents Handbook Series について—

The Japan Documents Handbook Series は日本研究の幅広い分野を取り上げ、世界の英語学術書の市場に向けて、東京から英語の書籍という形で発信していきます。特に人文・社会科学に焦点を当て、各巻ではテーマのさまざまなトピックについて新規に執筆された論文を約20本ほど収録し、研究者や学生の役に立つ最新の情報を提供いたします。すべての論文は査読を受け、日本と北米・ヨーロッパで印刷版とデジタル版を同時に発行していきます。



Japan
Documents

(an imprint of MHM Limited)

日本総代理店：極東書店

【プレゼントのお知らせ】

文化厚生委員長を長年務められ、会員交流にご尽力頂いた元 UPS 社社長、齋藤純生氏の著書「洋書流通と翻訳出版の世界」創英社 / 三省堂書店 を差し上げます。(先着順 / 在庫なくなり次第終了)

ご希望の方は事務局（下記メールアドレス）に会社名、氏名、送付先、電話番号をお知らせください。

日本洋書協会会報 vol.55 No.2(通算566号) 発行日2021年8月25日 編集者 遠藤 尚子

発行所 日本洋書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-13 (株)MHM内 TEL 03-3518-9631 FAX 03-3518-9523
URL:<http://www.jaip.jp> E-mail:office@jaip.jp